

# 豊かな感性を育む図画工作科の指導

— 第5学年「楽器をつくろう」の実践を通して —

加藤 潔 己

## 1. 研究課題

めあての把握・追求・達成の各過程に「気づき、感じ、考える、表現する場を設け、それぞれに即した支援を行えば、豊かで確かな学習を成立させていくことができるであろう」という研究仮説を設定し、第5学年「楽器を作ろう（作りたいものを作る）」をもとに、「子どもの豊かな気づき、感じ方を育む支援の在り方」について考察していきたい。

## 2. 本年度研究の視点

題材および題材との出会いの場の工夫

- ・内発性を引き出す導入
- ・自分の思い・イメージをふくらませる言葉かけ・発問

## 3. 指導事例 第5学年 「楽器をつくろう」

### (1) 題材について

子どもたちは一つの音からいろいろなイメージを広げ、音と遊ぶことができる。楽しいとき、うれしいときなど自然に体がリズムをとったり、歌を口ずさんだりしているものである。

子どもたちにとって音が出るものや楽器などはたいへん興味のあるものであろう。

ふだん、何気なく使っているいろいろな素材を手にし、たたいたり、こすったり、はじいたりして音を出してみることを通して素材に対する経験を深め、また自分なりの音の出るおもちゃ、あるいは自分なりの楽器を、よりよい響きをもとめて工夫することで、作る喜びを味わうことのできる題材であると考えられる。

本学級の児童は、図画工作に対して意欲的で、様々な用具や素材に対して関心も高い。また身の回りの材料を使っての造形活動を数多く経験している。しかしじっくりと素材に関わり、その素材のもつ特徴、質感を感じるなどの経験は少ない。また子どもたちは三楽器に音楽の授業で合奏「キリマンジャロ」を学習し、楽器を手にし音を出し、演奏する楽しさを味わっている。

自分なりの音色を求めるのに多様な方法、いろいろな素材を使って試みることをすすめ、表現の喜びを味わわせたい。

### (1) 指導目標

1. 楽器づくりを通して、ものをつくる楽しさを味わわせる。
2. 素材に進んではたらきかけ、多様な試みができるようにする。
3. 自分や友達の工夫・発想の良さに気づき互いに認め合う態度を養う。

### (3) 指導内容と計画…………… 6時間(本時 第一次 第1時)

第一次 空かんフルートをつくる。 (1時間)

第二次 自分なりの楽器をつくる。 (5時間)

第三次 友だちの楽器をきく。 (1時間)

#### (4) 本時について

身の回りには、ふだん何気なく触れたり、使ったりしているものも工夫して振動を効率よく空中に放出させれば、すばらしい音が出せる。そのことを知らせることによって子どもたちに「自分もつくってみたい」という意欲をもたせたい。本時はその製作意欲をふくらませることに焦点づけて活動をすすめたい。子どもたちの素材を手にし、試しながら自分たちで音を見つけていくことをねらいとするが、初めは教師の方から音や音の響かせ方を紹介していく。管楽器へと発展できる空かんのフルート、打楽器へと発展できるグラスの音ならしなど、しっかりと聞かせたい。

#### (5) 本時の目標

身の回りにはいろいろな素材に触れ、音を出すなどの活動を通して、自分の作りたい楽器のイメージを持つことができる。

#### (6) 準備物

(教師) 空かん、ストロー、ガムテープ、糸、金属の管、  
児童の楽器づくりのアイデアとなる素材としての以下のものを用意した。

しの竹 (直径10cm, 3cm, 1.5cm), ゴム, フィルムケース, 木切れ, ガムテープの芯  
いろいろな缶, スプーン, フォーク, ストロー, ボタン, つつ, じょうご, ホース

#### (7) 評価の観点

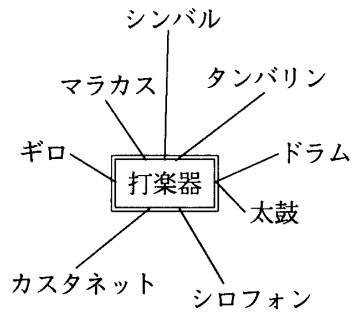
造形への関心・意欲・態度	自分の思い付いた活動を楽しんでいる。
発想や構想の能力	新しい思いつきや試みをしようとしている。
創造的な技能	自分なりの音を求めて工夫しようとしている。
鑑賞の能力	友達の工夫や努力、発想の良さを見つけようとしている。

#### (8) 指導過程

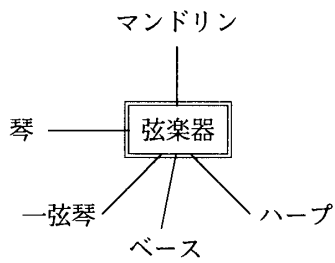
子供の学習活動	教師の支援活動
1. 空かんとストローで音をだす。 (空かんフルートをつくる)	1. 児童の製作を助けるために ・音の出るしくみ(空気の渦による発振)が同じ原理のものとして、一升瓶の口を吹き音が出ることを手がかりにさせる。
2. 音を変える工夫をする。	2. 音を変える工夫のため、以下の用意をしておく。 ・かんに穴を開ける釘、金づち ・かんに入れる水 音の変化を友だちどうしききあうことを勧める。
3. 身の回りにはいろいろな素材からの音を聞き、音が出る不思議さに触れる。	3. 楽器づくりの製作意欲をもたせるためにアルミパイプからの音をしっかりと聞かせ、音の出るおもしろさを味わわせる。
4. いろいろな素材を自由に手にし、音を出す活動から自分のつくりたい学期をイメージする。	4. つくりたい楽器の参考資料として、数種のプリントを用意する。

活動を振り返り次時への見通しを持たせるために、図工カードに以下のことを記述させ個々の活動状況を把握する。

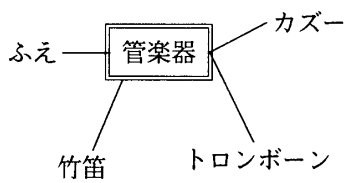
- ・次時に必要な物
- ・つくりたい楽器のおよそのイメージ



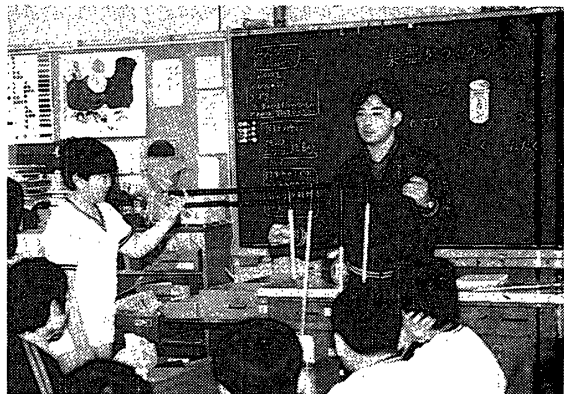
空き缶フルート作り  
活動①



音を変える工夫  
活動②




素材を手にし楽器作りのイメージを持つ  
活動③



4. 授業の概要と抽出児の様子

発問・支援・評価	子 ど も の 学 習 活 動		
	G 君	M 君	S さ ん
<p>1 空き缶フルートづくり</p> <p>空き缶から音を出すにはどんな方法がありますか。(ここまで5分)</p> <p>実際に試してみよう。</p> <p>音を出すのに一番工夫できそうなのはなんだろう。聞いたことのある音に手を挙げてみよう。</p> <p>最初、吹くからやってみよう。</p> <p>音のでた子どもに師範させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストローを穴に入れない。</li> <li>・角度をつける。</li> </ul>	<p>教師の発問に対する他児の発表</p> <p>ぶつける 吹く 中にものをいれ振る</p> <p>つぶす 燃やす おさえる</p> <p>2つを合わせる</p> <p>吹く</p> <p>指ではじく</p> <p>つぶす } に挙手</p> <p>たたく } に挙手</p> <p>吹く }</p> <p>缶の穴にストローをいれて吹く。</p> <p>缶を傾けストローの当たる角度を工夫する。(鳴る)</p> <p>指をストローに当て固定し安定した音を出している。</p>	<p>吹く 落とす</p> <p>指ではじく おさえる</p> <p>プチタブをおこす</p> <p>つぶす } に挙手</p> <p>たたく } に挙手</p> <p>吹く }</p> <p>振る }</p> <p>缶の穴にストローをいれて吹く。</p> <p>なかなか鳴らない</p> <p>音の出た子の発言を聞き、試す。ストローの角度が大きいが少し鳴る。</p>	<p>吹く ぶつける</p> <p>指ではじく</p> <p>手でこする</p> <p>つぶす } に挙手</p> <p>たたく } に挙手</p> <p>吹く }</p> <p>振る }</p> <p>缶の穴にストローをいれて吹く。</p> <p>男子がやっているのを見てどうしたら鳴るか考えている。</p> <p>ストローの角度を変えて試みる。鳴らない。</p> <p>缶に水を入れストローでぶくぶく吹く。</p>
<p>2 音を変える工夫をする</p> <p>一つの缶で音を変える工夫を考えよう。</p> <p>リコーダーを思い出してみよう。</p> <p>穴をあけようと思う人はくぎと金づちがあるよ。(ここまで22分)</p>	<p>2種類の大きさの違う缶をふかせ、音の違いを子どもに聞かせる。</p> <p>変音のくふう</p> <p>ほとんどの児童がくぎで穴をあけることを進める。</p> <p>缶に水を入れることを試みる児童が数名。</p>		
	<p>金づちで缶に穴をあける。(真剣な表情)</p> <p>ガムテープでストローを固定し、缶に穴をあけては音を確認していく。</p>	<p>金づちで缶に穴をあける。</p> <p>缶がつぶれてうまくあながあけられない(缶の柔らかい部分に穴をあけようとしつぶれる)。</p>	<p>水を入れることにこだわり、水の量を変えて変音の工夫を試みる。高い音を出せる。教師に聞いてもらいにいく。</p>

<p>3音が出る不思議さにふれる。 身の回りにあるものとして空き缶で音を出してみたけど、もっと違う音を出してみたい人もいるでしょうね。先生はたたくことを通して自分なりの音作ったんだよ。</p> <p>(ここまで35分)</p>	<p>長さの違うアルミパイプを、一本ずつたたいて音を出し、以下のような発問により音や楽器についてのイメージをふくらませる。</p> <p>教師の発問 「何かの音ににてるね」 「もう一本のほうは」 「もっと短いのは」 「どうも先生が自分なりに考えた音のイメージではありません。」 (次に、アルミパイプを全部同時にならして音を聞かす。) 「実はこの音がほしかったのです」……教会の鐘の音 「結婚式があったのかな」</p> <p>児童の反応 「……仏壇にある鐘の音」 「……寺の鐘の音」 「……おそうしきは？」</p> <p>目をしっかりあけて興味深く見ている。 伸び上がって見る。 にこにこ笑う。</p> <p>アルミパイプの音を聞いて笑う。</p> <p>わらっている。 じっと聞き入る。</p>
<p>4 自分の作りたい楽器をイメージする。(5分間)</p> <p>前にいろいろな材料があるので、どんな楽器を作りたいか考えよう。もっと材料にふれる時間がほしい人手を挙げて下さい。作りたい楽器のイメージができた人手を挙げて下さい</p>	<p>竹2本、ラップの芯をもつ。</p> <p>どれを取ろうかまようが友だちの様子を見て竹を取る。</p> <p>アルミパイプを取り、たたく。 皿、スプーン、針金を手にする。</p> <p>3人とも 挙手 挙手なし</p> <p>活動④ 素材を手にし自分なりの楽器のイメージを持つ。</p> 

## 5. 考察

「子どもの豊かな気づき、感じ方を育む支援の在り方」をもとめ、以下の研究仮説を設定した。

めあて把握・追求・達成の各過程に「気づき、感じ、考える、表現する場」を設け、それぞれに即した支援を行えば、豊かで確かな学習を成立させていくことができるであろう。

さらに「楽器をつくろう」の授業の中で、次のような授業仮説を立てた。

身の回りにあるいろいろな素材からの音を聞き、音がでる不思議さに触れる活動を取り入れるならば、自分なりのこだわりのある楽器作りをイメージすることができるであろう。

分析においては授業仮説を2つの視点から教師の支援と関連づけて行う。

- ① 音が出る不思議さに触れる場（「気づき、感じ、考える場」）の設定が、豊かな気づきや感じ方を育む支援と成り得たか。
- ② 自分なりの楽器作りが子どものめあてに成り得たか。

授業仮説①について

学習活動の3でのアルミパイプの音を聞く場の設定と音のイメージを求める問いかけは、子どもの感性をゆさぶり、いい音のイメージの方向性を示すものとなっていたと考えられる。

授業仮説②について

空き缶フルートづくりが教師にとっては学習活動の3・4につながるためのステップであったとしても子どもたちにとっては空き缶フルート作りと自分のイメージにあった楽器をつくるという2つの課題があった。授業構成の点からも、空き缶フルートを全員の児童が作れるだけの時間的・技術的な保障が必要であった。まず全員が音を出せた満足感を持つことが次の活動の意欲を持たせることになる。改善案として空き缶フルート作りだけを1単位時間とり、十分変音の工夫をさせることが考えられる。

筒状の入れ物とストローの笛(フルート)は、その筒の容積と穴の大きさ、そして児童がストローで吹き込む空気の勢いのバランスで、はっきりしたいい音がだせる。空き缶のフルートより、フィルムケースのフルートのほうが児童には適している。(広島大学学校教育学部 若元澄男先生)

自分の作りたい楽器をイメージする場合、音に対する楽器のイメージと形に対する楽器のイメージと両方ある。楽器の形の模倣はしやすいが音に着目した場合、音のイメージを広げるための活動を十分にしないと自分にとっての音のイメージをつかみきれない。音探しの時間を十分にとることが必要であろう。

## 6. おわりに

題材との出会いの場の工夫として、感性との関わりをとらえた導入方法を検討する必要がある。感動的な題材との出会いの場をもとめると、知的導入「この缶から楽器を作るには、どんな方法があるかな。」より、内発性（おもしろい、やってみたい、作ってみたい）を引き出す導入を求める必要がある。